平成29年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　足立　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，数学A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

⑵ 本校の学力調査結果の分析

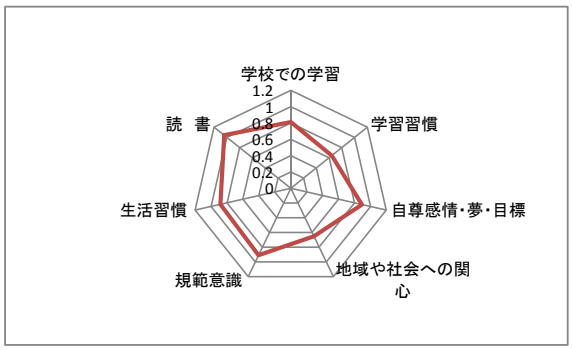
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、どの分野においても基礎基本の定着が課題である。 ・特に書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事実と考えの関係に注意し、構成を工夫して話す問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題については、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、国語に関する知識を応用・活用するにまで至っていないことが課題である。 ・文章を読み取り、根拠を明確にして、必要に応じて自分の考えを書く問題について課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて資料を効果的に活用して話す問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題については、正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、どの分野においても基礎基本の定着が課題である。 ・関数の問題に関しては無回答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・図形の問題に関しては、比較的得意な生徒が多いようである。	
	努力が必要な問題	・全般的に努力が必要であるが、特に関数に課題があった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、どの分野においても平均を下回っている。 ・難しい問題に関しては、無回答率が非常に高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・数量や図形などについての知識・理解について、比較的得意な生徒が多かった。	
	努力が必要な問題	・全般的に努力を必要とする問題が多かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が増加している。また、授業の中でめあて・まとめが示されていたという生徒の割合も増加した。しかし話し合い活動をよく行っていたと答えた生徒の割合は減少しており、各教科で話し合い活動の充実に努めていかなければならない。 ・自分にはよいところがあると答えた生徒の割合が低く、自尊感情が低いところが課題である。学校行事等の取り組みを通して、一人ひとりのよいところを認め合えるように指導することが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・昨年度より実施している基礎学力向上週間を、本年度は毎月実施している。定期考査とリンクさせ、繰り返し学習することにより、基礎的な学力の定着をはかる。
・すべての教科で、学校で統一した「めあて」・「まとめ」カードを使用することで、生徒に学習の見通しを持たせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の習慣が学習意欲に繋がることを踏まえ、週末課題や1日1ページノートの取組の充実を図る。
・学校通信や学校ホームページ等で学校の取組を積極的に発信したり、学校独自の春休みの宿題を作成して、小学校卒業前に配布する。